

Abstract of Japanese Utility Model

(11) Publication number: 3-39275
(44) Date of publication: 4.16.1991
5 (21) Application number: 1-99871
(22) Date of filing: 8.29.1989
(71) Applicant: Furukawa Denki Kogyo Co.
(72) Inventor: Kenjiro Konishi

10 (54) **Blade-shaped Male Terminal**

(57) **Abstract**

A blade-shaped male terminal which is formed by bending a plate material punched out from a metal plate 1, to have a threefold male tab portion 2, a conductor clamping portion 3, 15 and a cable holding portion 4.

BEST AVAILABLE COPY

公開実用平成 3-39275

⑩日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

平3-39275

⑬Int. Cl. *

H 01 R 13/64

識別記号

序内整理番号

C 8425-5E

⑭公開 平成3年(1991)4月16日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑮考案の名称 刀型雄端子

⑯実願 平1-99871

⑰出願 平1(1989)8月29日

⑮考案者 小西 健二郎 東京都千代田区丸の内2-6-1 古河電気工業株式会社
内

⑯出願人 古河電気工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号

⑰代理人 弁理士 松本 英俊

明細書

1. 考案の名称 刃型雄端子

2. 実用新案登録請求の範囲

金属板材を折り曲げ成形して雄タブ、導体圧着ウイング、電線保持ウイング等を構成してなる刃型雄端子において、前記雄タブは前記金属板材を3枚重ねにして形成されていることを特徴とする刃型雄端子。

3. 考案の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本考案は、例えば自動車の電気系の接続用コネクタ部品等として使用する刃型雄端子に関するものである。

[従来の技術]

従来は、第3図に示すように金属板材1を打ち抜いて、雄タブ2、導体圧着ウイング3、電線保持ウイング4等からなる刃型雄端子5の展開体を形成し、これを折り曲げて成形して第4図に示すような完成品の形状としていた。この場合、雄タブ2は第4図に示すように金属板材1を2枚重ねに

公開実用平成3-39275



して形成していた。

このような刃型雄端子5の雄タブ2の寸法として、外径3.5mmの電線に使うため、厚さ0.8mm、幅3.0mmのものが要求されている。このとき、雄タブ2が第4図に示すように2枚重ねでは、0.385mm厚さの金属板材1を使って第3図に示す如く14.5mmピッチの板取りとなる。このときのピッチは、電線保持ウイング4の展開幅によって決定される。即ち、第3図から他の部位に比べて電線保持ウイング4の部分のスクラップ分6の幅が一番小さくなっており、電線保持ウイング4の展開幅によって板取りのピッチが決定される。

[考案が解決しようとする課題]

このように従来の構造では、金属板材1の板取りとしては、電線保持ウイング4の展開幅が大きくなり、第3図に示すようにハッチングで示す部分がスクラップ分6となり、材料の歩留りが悪い問題点があった。

本考案の目的は、材料の歩留りの優れたコストの安い刃型雄端子を提供することにある。

[課題を解決するための手段]

上記の目的を達成するための本考案の構成を説明すると、本考案は、金属板材を折り曲げ成形して雄タブ、導体圧着ウイング、電線保持ウイング等を構成してなる刃型雄端子において、前記雄タブは前記金属板材を3枚重ねにして形成されていることを特徴とする。

[作用]

このように雄タブを3枚重ねの構造にすると、雄タブに要求される寸法を満足できると共に材料の歩留りが向上する。

[実施例]

以下、本考案の実施例を第1図及び第2図を参照して詳細に説明する。なお、前述した第3図及び第4図と対応する部分には同一符号を付けて示している。

図示のように本実施例の刃型雄端子5においては、雄タブ2を3枚重ねの構造にしている。

このようにすると、前述した厚さ0.8mm、幅3.0mmの雄タブ2を必要とする場合、0.250mm厚さ

公開実用 平成 3-39275



の金属板材1を使って第1図に示すような板取りをやればよい。このときのスケルトンのピッチは、やはり電線保持ウイング4の展開幅によって決まり、従来例と同じ14.5mmピッチとなる。

従来例と本考案と材料使用量の比は、ピッチが等しいので、金属板材1の厚さによってのみ決まり、

$$\begin{aligned}\text{比} &= (\text{本考案}) / (\text{従来例}) = 0.25 / 0.385 \\ &= 0.65\end{aligned}$$

即ち、65%となる。従って、本考案によれば、材料の歩留りが向上するのは明白である。

[考案の効果]

以上説明したように本考案では、雄タブを3枚重ねにしたので、雄タブの厚みを厚くするという要求を満足できる共に材料の歩留りを著しく向上できる利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る刃型雄端子の一実施例における打抜き前の状態の平面図、第2図は本考案に係る刃型雄端子の一実施例の正面図、第3図は

従来の刃型雄端子の打抜き前の状態の平面図、第4図は従来の刃型雄端子の正面図である。

1…金属板材、2…雄タブ、3…導体圧着ウイング、4…電線保持ウイング、5…刃型雄端子、6…スクラップ分。

代理人 弁理士 松 本 英 俊

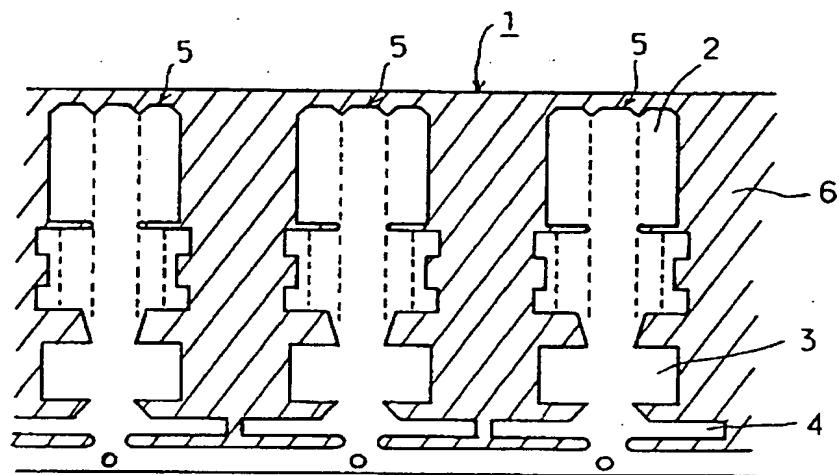


953

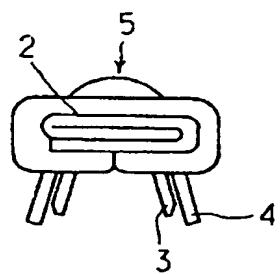
— 5 —

公開実用平成3-39275

第1図



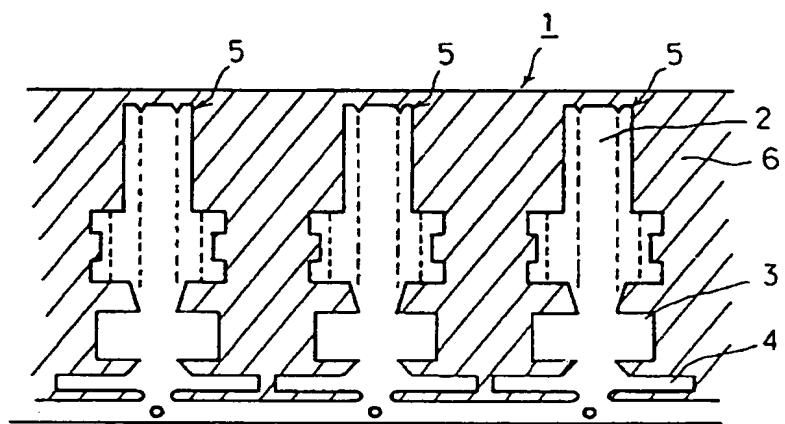
第2図



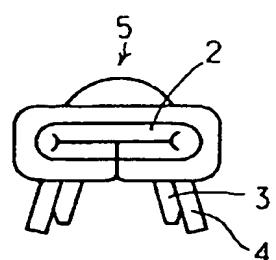
954

実開3-39275

第3図



第4図



955

実開3- 39275

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.